

科目名		建築デザイン実習Ⅱ			
担当教員		中野 聖奈	実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1.5	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	<p>年々進化を続け、新たな建築業界の主流になる「BIM」というツールを学び、身に付けていく。オートデスク株式会社のBIMソフト「Revit」の基本動作から、自分の表現したいことを適切に表現する方法や、実務で使える豆知識などを学んでいく。</p> <p>後期では、実務で必須の「図面表現」を中心に学んでいく。細かい指摘が多くなるが「図面は相手に伝えるツール」だということを常に意識して課題に取り組んでほしい。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>オリジナルの作品を自由にモデリングできる。(非住宅程度)</p> <p>Revitを用いて適切な図面表現ができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>はじめてのRevit&Revit LT</p> <p>配布オリジナル資料</p>				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	美術館または保育園のモデリング		2年次前期に取り組んだ美術館または保育園を選択し、各自でオリジナル非住宅のモデリングを行う。		
2	モデリング表現の向上		表現したい内容について、各自で方法を模索しながら自由なモデリング表現ができるようになる。		
3	スケジュール管理		自分の作品に対して、自分でスケジュール管理ができるようになる。担当教員と相談し、スケジュールを見直ししながら課題の締切にきちんと完成させて提出する。		
4	図面作成		配置図兼1階平面図、2階平面図、断面図、立面図、屋根伏図など、今までに取り組んだものだけでなく、図面リストや展開図など新たな図面にもチャレンジする。		
5	図面必要記入事項		どの図面にはどのような記入事項が必要なのかを学び、必要な情報をきちんと伝えられる図面を作成できるようになる。		
6	図面表現		寸法記入、文字の大きさや位置などの体裁を整え、誰もが見やすい適切な図面表現ができるようになる。		
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
モデリング表現	図面表現	課題提出締切			
40 %	45 %	15 %	%		
成績評価基準は			「BIM」は、建築業界及び自分の可能性を広げるツールです。中でも「Revit」はこれから主流となっていくであろう重要なソフトの一つです。それを学生のうちに使いこなせるようになっておくと社会に出たからの活躍の幅が大きく違うはずですが、ぜひいっぱい触って、楽しみながら技術を身に付けましょう。		
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			